

研究部門

受賞者： こばやし ひろよし 小林 寛伊 (79 歳)

東京医療保健大学 名誉学長 大学院医療保健学科 教授



現在、世界中で新型の感染症が注目されているが、小林氏は東京大学胸部外科学教室でキャリアをスタートさせた昭和 39 年当時より感染制御策の重要性に着目してきた。氏は、感染制御部を創設し、当時、世界的にも新しい分野であった感染制御学を導入し、日本における感染制御学の礎を築き、学問体系の確立に努めた。

氏は単に学問や病院感染制御のみならず、実践の学として広く社会環境の中での医療関連感染にまで広め、予防と制圧について先駆者的役割を果たした。その成果は幾多の指針の制定のほか、国の感染防止対策施策として診療報酬改定にも反映された。

実践例として、1990 年台初めより、日本全国でのサーベイランスの立ち上げに努力し、米国のシステムを参考に、平成 11 年に日本院内感染サーベイランス委員会（現 JHAIS 委員会）を立ち上げたことが挙げられる。これが厚生労働省主体の全国サーベイランスシステム（JANIS）のきっかけとなった。特に、手術部位感染のサーベイランスは、学会として活発に継続しており、現在は参加施設数が 300 を超え、周手術期感染発症率の低減とその軽症化に大きく貢献している。また、最近では、300 床未満の中小医療施設の感染制御策の向上と地域連携の確立につとめ、全国の各種医療機関を巻き込んだ感染対策ネットワークづくりを推進してきた。

氏の活動は国内のみならず、アジア・太平洋地域にも広がり、その活躍は欧米においても広く知られている。氏は日本の感染制御学のパイオニアとしてだけでなく、現在もリーダーシップを発揮し実践に携わっている。

推薦者： 落合 慈之 NTT 東日本関東病院 名誉院長